

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19330179

研究課題名(和文) 格差社会における子育て支援ネットワークのあり方と保育者の役割に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study on the network of child care support in a gap-widening society and the role of nursery school and kindergarten teacher

研究代表者

村山 祐一(MURAYAMA YUICHI)

帝京大学・文学部・教授

研究者番号：70314565

研究成果の概要(和文)：保育園調査、幼稚園調査、幼稚園・保育園に通園する父親調査、母親調査、該当園の保育者調査、自治体調査の5種類からなる総合的な調査を実施する。その調査に基づき、母親と父親の子育て意識状況、保育者の保育意識状況、親と保育者との意識のズレなどを保育園・幼稚園や自治体の状況を踏まえて総合的に分析し、格差社会における子育て支援における保育者の役割について検討した。

研究成果の概要(英文)：It was conducted several studies such as the research of Nursery school and Kindergarten, the research of father and mother of nursery school child and kindergartner, the research of nursery school and kindergarten teachers and the research on local governments. The results clarified the role of nursery school and kindergarten teacher of child care support in a gap-widening society thorough analyzing the attitude of father and mother toward child rearing, the attitude of nursery school and kindergarten teacher toward child caring, and the gap of consciousness between parents and nursery school and kindergarten teacher.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2008年度	9,800,000	2,940,000	12,740,000
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	14,800,000	4,440,000	19,240,000

研究分野：保育学

科研費の分科・細目：社会科学・教育学

キーワード：親の育児ストレス、保育者のストレス、経年比較分析、格差社会、保育園・幼稚園の子育て支援、親支援と保育者の役割、子育て支援ネットワーク、雇用環境

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、平成14年度から17年度にかけて

科学研究費補助金（「男女共同参画社会を支える地域子育て支援ネットワークに関する学際的基础研究」課題番号14310123）を受けて、母親調査・父親調査・保育者調査・保育園・幼稚園調査を総合的に実施した「保育・子育てに関する全国3万人調査」（以下村山科研第一次調査）の成果と課題を引き継ぎ、新たに第二次調査を実施することにした。

（2）村山科研第一次調査をふまえ、保育者調査を深めることや自治体の保育状況等も調査することで総合的な調査分析を深めることを確認した。

（3）社会的に取り上げられ始めている格差問題をふまえた子育て意識や子育て支援の検討が必ずしも十分でないことから、研究対象にすることの必要性を確認した。

2. 研究の目的

第二次調査は第一次調査の成果と課題を引き継ぎ、経年比較を含めた総合的検討を行い、今日の格差社会状況における、子育て支援のあり方と保育者の役割について総合的に検討する。

第2次調査は次のような内容で実施する。

- ① 保育園・幼稚園の保育者調査は第一次調査より対象を広げ、保育者の生活・労働実態及び意識に関する総合的調査を、保育園・幼稚園で働く保育者を対象に実施する。
- ② 該当する保育園・幼稚園を対象とした施設調査を実施する
- ③ 保育園・幼稚園等の対象施設のある市町村を対象に、子育て支援の取り組みの実情を把握する目的で簡便な自治体調査をおこなう。
- ④ 父親調査と母親調査については、重要な項目を中心に経年調査を実施する。
- ⑤ 子育て支援の届かない家庭とのつながりについて、特定地域でのアクションリサーチを実施する。

これらの調査を総合的に分析し、地域の子育て支援の中心的役割を担う保育者の実情や役割、ネットワークのあり方について総合的・学際的に研究することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 調査の目的と調査項目の作成

① 保育者調査は、第一次調査を踏まえて、調査項目の整理と若干の手直しを行い、第一次調査よりやや詳細な内容とした。調査対象も、第一次調査の約2.7倍の427園（保育園280園、幼稚園147園）を抽出し、保育者数は第一次調査の約2倍の7456人（保育園5975人、幼稚園1481人）を対象に実施した。

② 母親調査・父親調査については、経年調査として位置づけ、前回の調査項目をベースとして、親の子育ての実情をより深く検討する視点から若干の手直しを行い、第一次調査対象者の約6割の母親、父親を対象にした。

③ 格差社会の中での父親・母親の子育て支援ニ

ーズや保育者の生活実態を検討する手がかりを得るために、母親調査、父親調査、保育者調査については、所得状況の調査項目を設定した。

④ 施設調査の項目については、第一次調査項目をベースにして、クラス別園児数、園長の勤務・経験年数や職務内容、保護者に対する園の対応、園運営全般についての意識やニーズなどを追加した。

⑤ 自治体調査については、保育園・幼稚園等子育て支援行政の概況、公立保育所運営費の一般財源化の影響、待機児童問題、障害児保育、児童虐待問題、次世代育成支援地域行動計画等の状況について調べることにした。

(2) 調査対象の決定

「全国市町村要覧（平成19年度版）」により人口50万以上の自治体（政令市、中核市、東京都特別区）と人口30～50万までの自治体及び10～30万までの自治体を抽出し、各自治体の保育実施事業のうち類型Ⅰ（延長保育、一時保育、子育て支援）、類型Ⅱ（延長保育、子育て支援）のどちらかを実施している自治体を抽出し、調査対象として147市町村を抽出した。各自治体から保育園280園、幼稚園147園の427施設を抽出し、各園に保育者調査用紙、施設調査用紙を配布した。回収数は288施設（回収率67.4%）父親調査、母親調査については、第一次調査該当園の63園に配布し、回収数は42施設（回収率66.7%）であった。各調査の回収数・回収率は下記の表の通りである。

表1 回収数・率

	保育園	幼稚園	合計
施設調査	192 68.6%	96 65.3%	288 67.4%
保育者調査	3,518 58.9%	835 56.4%	4,353 58.4%
母親調査	3,055 47.6%	1,459 52.7%	4,514 49.1%
父親調査	2,447 38.1%	1,265 45.7%	3,712 40.4%
合計	9,212 48.2%	3,655 51.0%	12,867 49.0%
自治体調査			66 44.9%

4. 研究成果

1) 格差社会における父母の子育て意識

親の子育て支援にとって、親の仲間関係、園との関係、保育者との関係が大きく影響する。本調査では、この状況を経年調査として実施した。特に格差社会での状況を分析するために親の年収状況も調査した。収入が少ない層では、保育園の公的な行事や父母会の参加、園や地域などの友人との日常的交流が少ない傾向みられる。育児不安・ストレス等については、項目により差が見られるものもあった。しかし、収入の少ない母親は保育者との話し合い頻度が高いという傾向にあります。詳細な分析は今後の課題ではあるが、このような

経済状況の違いを考慮した対応が保育者には求められている（詳細は神田直子、山本理絵、諏訪きぬ 格差社会における乳幼児の父母の子育て意識（その1）、（その2）日本保育学会第63回大会2010.05）。

そこで、保育者の状況と役割について、とりわけ、地域の子育て支援の重要な役割を担っている保育園の保育士を中心に検討する。

2) 保育者の雇用環境と保育・子育て意識

(1) 保育者の雇用形態の特徴

保育者の雇用形態は表2に示したが、正規職員の比率（正規率）は幼稚園8割に対して保育園は6割である。保育園公私立別にみると、私立は6割強（64%）だが、公立は6割弱（59%）と低い。しかもクラス単位の平均でみると正規率はさらに下がる傾向にある。

表2 保育者の雇用形態

	正規	非正規A	非正規B	パート	その他
保	62.8%	24.8%	5.1%	4.9%	2.0%
幼	81.2%	10.5%	3.4%	3.4%	1.1%

注) 非正規A(以下非正A)は週5日以上1日平均6時間以上の勤務、非正規B(以下非正B)は同日平均6時間未満勤務、パートは週1日～4日のパート職員。

(2) 保育士の勤務時間と年間総収入

保育士の平均勤務時間は40～50時間未満が最も多く5割強（55%）、50～60時間は2割弱（16%）。公私立別では、正規保育士では、50～60時間は公立7割強、私立6割だが、50～60時間は公立2割弱、私立2割強、60時間以上は私立は公立より多く、全体として私立は公立よりやや長い傾向にある（表3、表4）。

表3 保育園保育士の週勤務時間(公立)

	30時間未満	30～40時間未	40～50時間未	50～60時間未	60時間以上
正規	1.3%	7.4%	72.1%	15.8%	2.9%
非正A	4.1%	32.8%	58.7%	4.1%	0.3%
非正B	94.1%	2.9%	2.9%	0	0
パート	87.2%	10.6%	2.1%	0	0
その他	72.4%	17.2%	6.9%	3.4%	0
合計	13.8%	14.6%	59.2%	10.5%	1.8%

表4 保育園保育士の週勤務時間(私立)

	30時間未満	30～40時間未	40～50時間未	50～60時間未	60時間以上
正規	1.5%	7.8%	60.6%	24.5%	5.6%
非正A	4.8%	26.1%	57.0%	11.0%	1.0%
非正B	81.1%	14.4%	4.5%	0	0
パート	86.5%	10.3%	1.6%	1.6%	0
その他	55.0%	15.0%	25.0%	5.0%	0
合計	11.3%	12.7%	53.5%	18.6%	3.9%

次に年間総収入についてみると、幼保を含めた全体では100万円未満約1割（11%）、100～300万円未満5割強（56%）300～400万円未満2割弱（17%）と専門職であるにもかかわらず低賃金構造で支えられている。公私立別にみると明確な有意差が見られる（表5、表6）。正規職員並みの労働時間の非正規Aは公立で200万円未満が7割強を占めている。さらに私立では正規保育士は300万円未満が6割弱を占め、400万円以上は1割強にすぎない。非正規Aも200万円未満が8割弱であり、私立全体で300万円未満が約7割を占める。

表5 保育園保育士の年間総収入(公立)

	100万円未満	～200万円未	～300万円未	～400万円未	400万円以上
正規	1.3%	3.9%	13.0%	17.2%	64.6%
非正A	5.0%	66.2%	27.5%	1.1%	0.4%
非正B	62.7%	28.4%	9.0%	0	0
パート	87.3%	12.8%	0	0	0
その他	58.6%	17.2%	20.7%	0	3.4%
合計	12.2%	23.8%	16.4%	10.2%	37.4%

表6 保育園保育士の年間総収入(私立)

	100万円未満	～200万円未	～300万円未	～400万円未	400万円以上
正規	3.6%	9.5%	42.7%	29.1%	15.2%
非正A	6.4%	70.8%	21.4%	1.2%	0.2%
非正B	45.4%	51.8%	1.8%	0.9%	0
パート	69.6%	53.6%	29.6%	0	0.8%
その他	53.6%	34.1%	9.8%	2.4%	0
合計	10.6%	27.5%	33.0%	19.1%	9.9%

(3) 休暇取得と仕事の持ち帰り

保育士が毎日の休憩時間と有給休暇がどの程度保障されているかをまとめたのが、表7、表8である。休憩時間及び有給休暇の取得は、勤務時間の長い正規保育士が最も取得状況が低い。

表7 休憩時間の取得の有無(保育園)

	きちんと取れている	ほぼ取れている	あまり取れていない	取れていない
正規	11.5%	33.1%	30.1%	25.2%
非正A	26.7%	31.5%	25.6%	16.3%
非正B	22.2%	35.2%	19.4%	23.1%
パート	37.3%	22.7%	23.3%	16.7%
その他	31.8%	31.8%	13.6%	22.7%
合計	17.2%	32.3%	28.1%	22.4%

表8 有給休暇取得の有無(保育園)

	ほぼ取りたい時取れる	あまり取れていない	ほとんど取れていない	有給休暇制度がない
正規	11.5%	33.1%	30.1%	25.2%
非正A	26.7%	31.5%	25.6%	16.3%
非正B	22.2%	35.2%	19.4%	23.1%
パート	37.3%	22.7%	23.3%	16.7%
その他	31.8%	31.8%	13.6%	22.7%
合計	17.2%	32.3%	28.1%	22.4%

正規	33.1%	29.5%	36.5%	1.0%
非正A	50.4%	20.8%	22.3%	6.5%
非正B	67.1%	11.0%	7.7%	14.2%
パート	51.0%	8.1%	13.4%	27.5%
その他	58.9%	8.9%	14.3%	17.9%
合計	40.2%	25.2%	30.2%	4.4%

さらに、保育の日常業務である日案・月案、日誌や児童票、クラス便りなどの仕事について、正規保育士の約8割が家に持ち帰っている(表9)。

表9 日案・月案など仕事の家への持ち帰りの程度(保育園)

	よくある	ときどきある	あまりない	全くない	かかわっていない
正規	55.3%	25.5%	7.8%	4.1%	7.2%
非正A	33.7%	20.1%	7.6%	8.9%	29.7%
非正B	12.6%	7.5%	3.8%	3.8%	72.3%
パート	9.0%	3.8%	3.2%	0%	84.0%
その他	11.9%	11.9%	6.8%	3.4%	66.1%
合計	45.0%	22.1%	7.3%	5.1%	20.5%

(4) 保育ストレスと保育者の役割

以上のように、忙しさに追われていると思える保育環境の中で、保育士の意識がどのようになっているかをみよ。

保育者の保育ストレスについては第1次調査においても検証してきたが、第2次調査でもほぼ同じような傾向が見られた。特に全体として、保育者のストレス反応は第1次より第2次の方が高くなっている。(詳細は神谷・戸田・渡邊保育者のストレス反応の2003/2008年度比較日本保育学会63回大会2010.05)あらためて正規保育士と非正規保育士等との勤務形態別にその特徴をよ。

「ゆとりがないと感じるか」の問いに「よく感じる」は非正規A2割強、非正規B約1割なのに、正規保育士が4割強と大変高い(表10)。

表10 ゆとりがないと感じる(保育園)

	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	全く感じない
正規	44.2%	46.2%	8.9%	0.8%
非正A	23.0%	51.6%	22.2%	3.1%
非正B	9.3%	38.5%	45.3%	6.8%
パート	6.7%	39.3%	41.7%	12.3%
その他	21.3%	23.0%	44.3%	11.5%
合計	35.0%	46.4%	16.1%	2.4%

具体的にその他保育にかかわる身体的・精神的負担感(保育ストレス感)に関する項目をよても、正規保育士が最も高く、次いで正規並の労働時間の非正規Aの層が高く感じている(表11、12、13)。短時間勤務の非正規Bとパート層との差は歴然と

している。全体として正規保育士のストレスが高い傾向にあるといえる(詳細は神谷、杉山(奥野)、戸田、村山、保育園における雇用環境と保育者のストレス反応—雇用形態と非正規職員の比率に着目して、日本労働研究雑誌 第608号、2011参照)。

しかし、同時に、保育や親からの子どもや育児に関する相談に対して、全体的に大変積極的姿勢が見られる。例えば「もっとゆとりを持って保育にあたりたいと感じること」の問いには、正規保育士の場合、「よくある」は6割で「ときどきある」を含めると9割強(93%)に達している。また親からの相談の有無では正規保育士の約9割が「ある」(よくある+ときどきある)と回答している。「ある」と回答した保育士にどのように対応しているかの回答をよると、全体的に積極的対応の意識がうかがえる。たとえば「できるだけ親の話を聞くように心がけている」では「あてはまる」は8割強(85%)、「ややあてはまる」は2割弱(15%)に達している。また「できるだけ親を励ますようにしている」では「あてはまる」5割(50%)、「ややあてはまる」4割強(42%)と9割強がそうした対応をしている。また、相談に関して「他の職員と一緒に話し合ったり、考えたりする」も「あてはまる」6割強(65%)、「ややあてはまる」3割強(32%)とほとんどの正規保育士が積極的な対応をしていることが読み取れる。

表11 保育をしていて、身体の疲れを感じること(保育園)

	よくある	ときどきある	あまりない	全くない
正規	44.3%	44.7%	10.3%	0.7%
非正A	33.6%	50.9%	14.0%	1.5%
非正B	15.2%	54.4%	28.7%	1.8%
パート	18.5%	48.2%	28.0%	5.4%
その他	26.6%	40.6%	23.4%	9.4%
合計	38.6%	46.8%	13.3%	1.4%

表12 園児にイライラすること(保育園)

	よくある	ときどきある	あまりない	全くない
正規	11.0%	48.0%	34.4%	6.6%
非正A	7.1%	45.8%	38.6%	8.5%
非正B	0%	32.5%	53.3%	14.2%
パート	1.2%	28.3%	53.6%	16.9%
その他	7.7%	23.1%	49.2%	20.0%
合計	9.0%	45.2%	37.6%	8.2%

表13 忙しく思うように保育ができないと悩むこと(保育園)

	よくある	ときどきある	あまりない	全くない
正規	30.4%	52.3%	16.6%	0.7%
非正A	18.5%	52.9%	26.9%	1.6%
非正B	4.8%	38.2%	52.1%	4.8%

パート	8.7%	37.3%	44.7%	9.3%
その他	18.0%	29.5%	39.3%	13.1%
合計	24.9%	50.6%	22.7%	1.8%

さらに、調査では自分自身にとっての必要な課題についても聞いている。「親とゆっくり話し合える時間」、「保育や子どものことで安心して話のできる友人・同僚」、「保育者相互の打ち合わせの時間」、「保育計画や日誌、児童票、クラス便り、連絡帳などにあてる時間」いずれもの設問に、自分自身にとって「必要である」（「とても必要」＋「少し必要」）が9割を占めている。

このように保育士、とりわけ正規保育士は全体として低賃金で長時間労働のなかで、保育や子育てで支援に積極的な対応が見られるし、子育て支援の中核的役割を果たしているといえる。

しかしながら、仕事の継続の意思は必ずしも積極的ではない。「今の仕事をつづけたいとおもいますか」の設問では、「できるだけ長く続けたい」は非正規Bやパートが6割弱（約59%）だが、非正規Aは5割、正規は5割弱（47%）と低くなっている。正規の場合は「時期をみてやめたい」が3割弱（27%）「結婚したらやめたい」1割、「子どもが生まれたらやめたい」1割弱（8%）となっている。子どもとの関わりの楽しさや保育や子育て支援の意義や重要性を意識し保育者として自覚しているといえる。しかし「仕事の継続の意思」を高める（キャリア形成）という点ではことには必ずしも十分とはいえないように思える。やはり、その背後には低賃金、長時間労働、保育ストレスといった状況が影響しているのではないかと考えられる。

今後の課題は、格差社会における母親、父親の子育て意識状況を分析しつつ、園の状況や自治体の子育て支援行政との関連や自由記述の分析や改善ニーズ等詳細な分析をふまえ、子育て支援のあり方と保育者の役割について総合的・構造的な把握を進めることが求められている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計11件）

- ① 神谷哲司、杉山（奥野）隆一、戸田有一、村山祐一、保育園における雇用環境と保育者のストレス反応－雇用形態と非正規職員の比率に着目して、独立行政法人労働政策研究・研修機構 日本労働研究雑誌、査読有、第608号、2011、PP103~114
- ② 村山祐一、逆井直紀、中村強士、実方伸子、木村雅英、保育所の現状・制度の仕組みと課題 査読無 保育研究所 保育白書2010 査読無 2010 PP30-57（担当部分：村山祐一 PP30-39）
- ③ 村山祐一 幼稚園の現状・制度の仕組みと課題 B 幼稚園の制度と財政 保育研究所 保育白書2010 査読無 2010 PP59-63
- ④ 村山祐一、待機児童の解消をめぐる国の動きと問題点、第一法規、ようほ・ほっとライン、査読無、第14号 2010 PP2~5
- ⑤ 村山祐一、待機児童解消と公的保育制度、新日

本出版社、経済、査読無、第171号、2009、PP68~79

⑥ 諏訪きぬ、神田直子、戸田有一、村山祐一、山本理絵、石野陽子、望月 彰、神谷哲司、渡邊保博、逆井直紀、奥野（杉山）隆一、『父親・母親・保育者3万人の声』から見えてきた子育てと保育－新しい子育て支援のあり方を求めて、ミネルヴァ書房、発達、査読無第29巻通巻114号、2008 PP2~60

⑦ 戸田有一・辻本真菜、3歳未満児保護者の子育て支援事業の利用・情報取得状況の定量的研究、保育研究所、保育の研究 査読無 第22号 2008 PP86~93

⑧ 村山祐一、子育て環境格差の拡大と保育のあり方を考える、保育研究所、保育の研究 査読無 第22号 2008 PP14-18

⑨ 杉山（奥野）隆一、格差社会の現実から考える認定こども園の問題点 保育研究所 保育白書2007 査読無 2007 PP116~120

⑩ 神田直子、戸田有一、神谷哲司、諏訪きぬ、保育園ではぐくまれる共同的育児観、日本保育学会、保育学研究、査読有、第45巻2号 2007、PP58~68

⑪ 村山祐一、子育て支援施策拡充の視点を考える（保育フォーラム：親もともに育つ子育て支援とは） 査読無 日本保育学会 保育学研究、第45巻2号 2007年、PP163~165

〔学会発表〕（計11件）

① 神谷哲司、諏訪きぬ、戸田有一、山本理絵、渡邊保博、長期間・長時間保育と保育者の役割（自主シンポジウム）、日本保育学会第63回大会、2010年5月23日、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学（愛媛県）

② 神田直子、山本理絵、諏訪きぬ、格差社会における乳幼児の父母の子育て意識（その2）－保育・子育てに関する第2次全国調査より、育児不安を中心として、日本保育学会第63回大会、2010年5月22日、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学（愛媛県）

③ 神田直子、山本理絵、格差社会における乳幼児の父母の子育て意識（その1）－保育・子育てに関する第2次全国調査より、親仲間・保育者とのかわり、日本保育学会第63回大会、2010年5月22日、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学（愛媛県）

④ 村山祐一、杉山（奥野）隆一、神谷哲司、逆井直紀 保育者の保育・子育て意識と子育て支援－第2次村山科研保育・子育て全国調査より－日本保育学会第63回大会、2010年5月22日、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学（愛媛県）

⑤ 神谷哲司、戸田有一、渡邊保博 保育者のストレス反応の2003/2008年度比較－村山科研第1次・第2次全国調査より、（ポスター発表）、日本保育学会第63回大会、2010年5月23日、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学（愛媛県）

⑥ 望月彰・戸田有一、自治体の子育て支援施策の現状－村山科研第2次全国調査より－（ポスター発表）、日本保育学会第63回大会、2010年5月23

日、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学(愛媛県)
⑦ 寺川志奈子・神谷哲司・杉山(奥野)隆一「鳥取県における子育て支援に関する保育士の意識 (2) —保育所間の比較」(2009年5月 日本保育学会第62回大会)

⑧ 杉山(奥野)隆一・寺川志奈子・神谷哲司「子育て支援に関する保育士の意識 (1) —世代間比較」(2009年5月 日本保育学会第62回大会)

⑨ 村山祐一 「幼保一体化」への動向と課題 (大会準備委員会企画シンポジウム:「幼保一体化」の現状と課題—子ども・保護者・保育者の視点から検討する— 日本保育学会第61回大会、2008年5月18日、名古屋市立大学(愛知県))

⑩ 諏訪きぬ、佐々木美緒子、佐藤陽子、正岡里鶴子、石田幸子、低年齢児保育の拡大と保育者の育児意識 日本保育学会第61回大会、2008年5月18日、名古屋市立大学(愛知県)

⑪ 村山祐一・渡邊保博・杉山隆一・望月彰・逆井直紀「保育者の親への対応(親へのサポート)にかかわる意識とニーズ—保育・子育て全国3万人調査(村山科研)から—、日本保育学会第60回大会2007年5月20日 十文字学園女子大学(埼玉県)

[図書](計5件)

① 浅井春夫、建帛社、子ども家庭福祉、共著、2011、全192頁(担当部分:村山祐一、112-128頁)

② 神田英雄・村山祐一、新日本出版社、保育とは何か、共著 2009年 全285頁(担当部分:村山祐一 19-58頁)

③ 第2次村山科研子育て支援に関する共同研究プロジェクト(代表村山祐一)、保育・子育てに関する第二次全国調査報告書、2009年、全735頁

④ 岩本俊郎・浪本勝年 北樹出版 現代日本の教師を考える 共著 2008、全124頁(担当部分:村山祐一 96-105)

⑥ 村山祐一、新読書社、『子育て支援後進国』からの脱却—子育て環境格差と幼保一元化・子育て支援のゆくえ、単著、2008 全338頁

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村山 祐一 (MURAYAMA YUICHI)

帝京大学・文学部・教授

研究者番号: 70314565

(2) 研究分担者

(該当なし)

(3) 連携研究者

大宮 勇雄 (OOMIYA ISAO)

福島大学・人間発達文化学類・教授

研究者番号: 10160623

諏訪 きぬ (SUWA KINU)

明星大学・教育学部・教授

研究者番号: 70105170

渡邊 保博 (WATANABE YASUHIRO)

静岡大学・教育学部・教授

研究者番号: 50141552

神田 直子 (KANDA NAOKO)

大阪千代田短期大学・幼児教育科・教授

研究者番号: 30117783

山本 理絵 (YAMAMOTO RIE)

愛知県立大学・教育福祉学部・教授

研究者番号: 60249282

戸田 有一 (TODA YUICHI)

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号: 70243376

奥野 隆一 (OKUNO RYUICHI)

鳥取大学・地域学部・教授

研究者番号: 10437519

望月 彰 (MOCHIZUKI AKIRA)

愛知県立大学・教育福祉学部・教授

研究者番号: 40190954

神谷 哲司 (KAMIYA TETSUJI)

東北大学大学院・教育学研究科・准教授

研究者番号: 60352548

石野 陽子 (ISHINO YOKO)

島根大学・教育学部・講師

研究者番号: 90457028